

## 第 [8] 回 レポート

---

### ○授業の感想○

今回のお話を聞いて、私は自分の将来設計について考えることができました。最近では人生 100 年という言葉をよく聞くようになり、漠然と 100 年かぁ...と考えていました。しかし、お話を聞いているうちにこのまま漠然と考えているのは人生の無駄遣いだと気づき、自分の将来についていつどうしたいのか考えるようになりました。このような機会は普段の授業ではなく、貴重な機会になりました。

また、金坂さんの考えや人生を聞いて、純粋に尊敬しました。私は今、たくさん大好きな人たちに囲まれ幸せに生きています。その中で、身近な幸せに満足してしまい、やり遂げることを辞めてしまうことがあります。しかし、リーダーを目指すのであれば、今ある環境に満足せず、挑戦することをやめてはいけないと思いました。

---

カネパッケージ社長のお話を聞いて

全体的に昨今の若者の特性に合った教育方針だと感じた。

特に叱られ慣れていないで成人したティピカルな若者の理想のような教育方針だと思った。叱られることで自分を追いこむ、追い込まれることはかなり心身に負担をかける。

実際のところ叱る上司がをの中では大半を占めると思う。

自身が DV を受けたりした過去も大きいのかもしれないが、決して怒らない姿勢はなかなかできることではないと感じた。

実際、怒られないことでサボるような人が出ると考えがちだが、そうではなく社員からの意欲を引き出せるのだということがよく伝わってきた。

自分に一番響いた、参考にしようと思った点として、社員の捉え方がある。

社員だけでなく社員の家族まで責任を持つという考え方は上司のあり方として尊敬する。

自分が部下を持つような立場になった時に、部下自身だけでなく部下の家族の責任を持って仕事ができるように心掛けたいと思う。

いかにして皆が気持ちよく、楽しく仕事、志事ができるかということを常に気に留めながら自身も仕事ができたら良いと思う。

---

カネパッケージの金坂社長の講義では、①ビジネスチャンスはどう掴むか、②逆境をどうとらえるかの 2 つのテーマが大変興味深いものだった。

まず、金坂社長の話で印象に残ったことは、常に前向きに行動をしたり、思考していたことだ。私を含め、友人たちは、何かとできないことを環境のせいにし「しょうがない」で済ませてしまいがちである。しかし、金坂社長は、実母の自殺や小学三年から新聞配達をしていた幼少期でも、環境のせいにせずアメリカに行きたいという夢を持ち続け実現した

このようにポジティブなマインドを持っている。

今回、私は、①ビジネスチャンスはどう掴むか、②逆境をどうとらえるかのテーマに興味を持ったが、「ポジティブであること」は2つのテーマに共通して必要不可欠なチカラだと感じた。質問できなかったが、機会があれば金坂社長にポジティブを維持する方法についてお聞きしたい。

---

今日はカネパッケージの社長である金坂さんのお話を聞きました。自身のこれまでのキャリアの話、会社で心がけていること・行っていることについて聞きました。すごく貴重なお話をきけてよかったです。

その中でも社長に就任したばかりの頃の話が印象に残りました。社長に就任した際、自分より目上の人たちとどうしたらうまくやっていけるだろうかと考えたときに、叱って育てる団塊世代のやり方から一変して「ありがとう」と言うことにしたというのに驚きました。そして、その結果、社員がいいことも悪いことも話してくれるようになったというのに感動しました。

さまざまなリーダーのかたちがあって、その中でも金坂さんのようなリーダーのかたちは尊敬できる上に、こんな社長だったらついていきたいなと思いました。また、このような価値観が形成されるに至ったのはきっと学生時代の経験やフィリピンでの経験などさまざまな経験が積み重なってできたものだろうと思いました。

---

挑戦することの大切さそして挑戦し続けることにより成功する可能性が高くなる。話を聞いて何か始めること、その一歩目が重要でありそこから可能性が広がっていく。

話を聞いている中で一番心に残ったのは、挑戦し続けることによりチャンスを見つけることができる。という事である。何事も行動し広い視野を磨く、その中でいつかチャンスかを見抜く。見抜きなが勝負所では気を抜かない、ここが非常に大事である。何事もあきらめない、その継続力をつける事である。継続は力なりという言葉があるくらい重要なのではないかなと思いました。全力でやることにより次に繋がる。次のためになる。たとえミスをしたとしてもそこから学ばばいいと思う。そこからミスをした理由などを考え次に生かし次はミスしないようにする。結局、挑戦し続けることにより得られる。だから挑戦しなければならぬと思いました。

---

今回金坂社長のお話を聞き、3時間のうちに様々なことを考えたが、特に自分の中で大きかったのは人生計画を書く作業である。

まずはじめに私は、人生というのは本当に何が起こるか分からないものであり、予測がほぼ不可能だと思っている。なにかのきっかけでそれまで自分の生きてきた世界が違う世界に見えることや、自分の性格が人々との出会いの中で変化することもある。これまで、自分の1年後までの計画や希望を紙に書きだしたことは多々あるが、あまり人生という長

期的なものに対し具体的な計画を立てようと思ったことがなかった。人生 100 年時代という言葉を聞いても自分が 100 年も生きること、そこまできなくても 70 歳くらいまで生きることなど想像ができなかった。

しかし講義中、一向に埋まらない人生計画を眺めながら気付いたことが 2 つある。一つは、人はいつか必ずこの世からいなくなるということ。もう一つは、沢山夢を見ていいということである。「死」というものは、きっと人生計画の一番最後に置かれる。この死がいつ自分や友人に訪れるかは分からないが、それを迎えば私たちは様々な感情になったり、物を考えたりすることはなくなってしまふかもしれない。どんなに今辛く感じる現実があったとしても、そのシーンを生きることができるのは実は人間としてとてもうれしいことなのだろう。このことを私はすっかり忘れてしまっていた。

そしてだからこそ、夢を持つということも自らが生きているからこそできることなのだと考える。命あるうちは、会いたいと思った人に会うことも不可能ではないし、自分の気持ち次第で私たちは現実を変えることができる。今いる世界も、自分自身の生活も変えることができる。それならば、「自分にはこんなこと無理だろう」「夢などかなうはずがない」などといっていないで、夢を見る特権をたくさん使わなくてはもったいない。同じ人生を送れることはもう二度とないのだから。

今回の講義以降、私は頻繁にあの人生計画の図を思い出しては「将来何をしようか」と考えている。あまり未来というものに対し積極的でなかったにもかかわらず、楽しい気分を考えている自分に少し驚いている。今後も生きている限り考え続けるのだと思うが、常に欲張りになることを恐れず、将来を前向きに考えていきたいと感じた。私は来年就職活動も待っているの、そのためにも真剣に取り組んでみようと思う。

---

私はこの講義を通じて、人生の生き方やリーダーをしている人が成功する考え方について学ぶことができた。カネパッケージが行っている事業や会社が成功する秘策を教えてください。最近、世間ではグローバル化が進み生涯の働き方が変わっているところであると私は思う。この会社も海外進出をすでにし、社会の変化に対応していると言える。この会社で行っている社会貢献として、フィリピンでのマングローブの植林について話してください。この取り組みの映像を見て、マングローブができそうな所で田植えのようにマングローブを植え、地球温暖化防止に対する取り組みを進めていることがわかった。このようなことは、時代に合わせた取り組みであるともいえる。金坂さんのように生涯同じことをしなくても、社長として世間のための「何か」をすることだってできるわけだ。私は 30 代以降、仕事以外にも家庭を養えるような人生設計を考え、できる限り働くことも考えた。

この講義全体からいえることであるが、非常に面白く、将来の人生を考えるきっかけになった。ドラマみたいな映像は迫力あるものだった。自分が将来のことを考えることも面白くなった。

---

第8回はカネパッケージ社長・金坂良一氏を講師に迎え、金坂氏の半生とカネパッケージの取り組みについて講義を受け、最後は自分の人生設計を行い、幾人かが皆の前で発表した。

今回の講義の中で一番印象に残っているのは、講義の最後の方で行った自分の人生設計である。30歳から70歳まで10歳ずつ年齢を区切って、自分はどんなことをしているか書き出す作業であった。この作業で痛感したことは、私は自分の人生設計ができていないということである。定年退職をしているであろう60代の頃にやってみたいことはいくつか書けたが、仕事において責任が出てくる年代である40代、50代の時にどのようなことをしているか、していただきたいについてはほとんど書き出せなかった。

講義終盤に行われた個人の人生設計の発表では、実に多種多様な人生設計を聞くことができた。そうすると、自分の人生設計の貧相さに少し残念な気持ちを持った。しかし、前向きに考えれば、この出来事を自分の人生について考えるきっかけにすればよい。人生設計は一朝一夕にできるものではないと考えているので、時間をかけて、自分がどのような人間になりたいのか、どのような人生を送りたいのかこれから考えていきたい。

---

#### 金坂先生の授業の感想について

平成30年11月17日の授業は、カネパッケージ株式会社の金坂良一代表取締役社長が講師となり、「私の人生とビジネスチャンスの掴み方」というテーマでの講義だった。

金坂先生は、1959年に岡山県の中国山地の山の中で生まれた。生後5ヶ月の時に母親が亡くなり、父親は再婚したものの酒乱になり、義母に対するDVもあって、早く家から出て生活したいと思って少年時代を過ごしたそうだ。

そういう思いから、岡山から離れた東京の大学を選択したということだった。当時のテレビ番組「兼高かおる世界の旅」をみては海外を夢見ていたので、大学卒業後27歳で単身アメリカへ渡り、子会社を立ち上げ夢に見た海外への第一歩は経営者としてのデビューとなった。

その後、1997年38歳でカネパッケージ株式会社へ中途入社した。翌年にはフィリピン社の本格立ち上げと経営立て直しにとりかかり、海外事業の責任者として、中国、香港、ベトナム、タイ、インドネシアへと事業を拡大して、海外事業を会社全体の売上げの79%を占めるまで成長させた。同族会社の創業者とは親族関係にはないものの、2007年48歳で日本本社の二代目社長に就任し、従業員と共に毎日楽しく「驚き」と「感動」を体験中とのこと。

講義用の画像がバッテリー不足により使用できなくなったが、講義内容には全く支障なく講義を進めている姿をみて、さすがだなと思った。心に残った言葉がたくさんあったの

で、思い出すまま列挙してみる。

人は、こだわりをもって生きていくことが必要ということ。夢を持ち続けることの大切さ、夢に向かって挑戦する人だけにチャンスはやってくる。この考え方を仕事上で実践していて、技術の限界に挑戦しているということだった。

“ひとを育て人を作る” ことについては、「楽しい」が大事であり、やる気を出させる環境をつくるのは会社の責任である。その人の能力や人格を認めてあげること、「ありがとう」を言うことを実践して、従業員一人一人の心を大切に、挑戦する心をサポートすることが必要である。また、従業員を幸せにするということは、その人の家族も幸せにしないと本当の幸せにはならないという話があった。

仕事とは、志を持って継続してやることで、「志事」となり、全うすると「天職」となり、それが自分の「人生」になるという話を聞いた。「志事」という単語に初めて出会ったので、今日の収穫の一つになった。

講義途中にユニークな問題が出た。東大生の2/3がやっていた習い事は何か？東大生が家庭で勉強するときが一番多い場所はどこか？二番目の答えは知っていた「リビング」で、一番目の答えは「水泳」であった。水泳はランクが上がる喜びなどがあるので、向上心を育てることに繋がるということだった。

カネパッケージ株式会社は、業績を伸ばし、利益を追求するだけでなく、従業員がマンガグローブの苗木を1100万本植樹するなどの社会貢献活動を毎年実施している。会社の売り上げの0.1%を環境改善活動のために予算を計上しているそうで、その活動により従業員の感謝と痛みのわかる心を育てる、CSRもしっかりしている優良企業だということが、今日の講義を受けてはっきり分かった。

そして、「感じる心」、「感動する心」、「感謝する心」を大切に、従業員が会社に来ることが楽しいと思えるような職場環境を築き導いた。その金坂代表取締役社長のリーダーシップのすばらしさが心に残った授業だった。

---

カネパッケージ(株) 金坂社長 講演

金坂社長の講演で一番印象に残った話は、チャンスの話です。

「人は夢を持ち続ける事がとても大切で、そして夢に向かっていてる人だけがチャンスを掴む事が出来る」と言われていました。思い続けているとチャンスはやって来る。ただ気付くのはチャンスが来る前かもしれないし、正面かもしれないし、通過後かもしれない。どの部分を自分に見せてくるかわからない。意識を常に持ち続ける事が大切である。そしてチャンスを掴み1つずつクリアし続ければ大きな結果に結び付くのである。と社長のお話は実経験に基づいているのでとてもよく伝わってきました。

また社長に就任した頃のお話も興味深いものでした。海外から帰って来たばかりで、社員の事もよく分かっていない。お互いをよく知らない上に、自分より社歴のある人や年齢が上の人もいて、自分の事を社長となかなか認めてもらえなかった。どうしたら認めても

らえるのか悩まれたという話でした。とても苦勞されたんだろうなと思いました。また、認めてくれない人は必ずいるものだろうと容易に推測も出来ます。金坂社長の取った行動は、

「ありがとう」と言う感謝の言葉をよく使ったとの事でした。感謝の言葉はやはり魔法の言葉です。言われて嫌な気分になる人はいないと思います。たいてい社長や役職に就くと、感謝の言葉を忘れるひが多いいと思います。その魔法の言葉一つで、下に働く人の気持ちは全然違うのという話はよく聞きます。どの立場になっても感謝の言葉は大切であるし使って欲しいと思います。そして金坂社長に対して態度が悪かった人たちも徐々に変わっていったとの事でした。

金坂社長は「怒らない。人の能力を認める。挑戦する気持ちを大切にする」と言われてました。一般的な社長のイメージとは違う社長さんだなと思まいした。

社長のイメージは「自我が強く、人に合わせない、我を張る」です。この様なタイプの人でないとリーダになれないと思っていました。

金坂社長のお話は逆だったのでびっくりしました。この様な社長さんもいらっしゃるんだ。社員の皆さんも働きやすいのではと思いました。

そして、最初の頃の授業でリーダの種別や、リーダの資質として必ずしも強さを前面に出す必要はないと言っていた事を思い出しました。

---

カネパッケージの金坂良一さんにお越しいただいた。金坂さんは、夢や目標を持つことの大切さを説かれた。そしてそれらは“8割”叶うらしい。曰わく、自分で描いた夢、目標に向けて人生を無意識に軌道修正するので、近いところまではたどり着けるのだと言う。私は金坂さんのおっしゃることを信じている。同じことを高校の先生に言われ、勇気づけられた過去がある。

人生目標を立てて、皆の前で発表した。実は、あの人生目標には“裏目標”がある。あの目標が叶わなかった場合に置き換えられる第二の目標である。私たち大学生の目下の試練として、就職活動がある。特に私の世代は就職活動がさらに厳しくなるはずである。私たちは将来氷河期世代と呼ばれるだろう。それでも私は私に出来ることを精一杯成し遂げ、環境のせいにするつもりは毛頭ないが、それでも失敗してしまった場合、『国外逃亡』を図ろうと思う。もはや国内で出世が見込めなくなり孤独に自殺するくらいなら、何の知識も経験も、知己もない私が国外で事業を立ち上げ、経済的成功を成し遂げたいのである。そのためには今から語学を学ぶ必要がある。

やらなければ始まらない。

---

カネパッケージ株式会社の金坂社長の講義を受けて、夢を持つ大切さを明確に分かることができた。私には就きたい職業があり、理想の将来像があって、普段から意識して生活していこうと思った。また、NOと言わない主体性を大事にする金坂社長の教育方針が会社

を成長、個人の成長に導いているのだと学ぶことができた。

夢を持つ大切さについて。夢に向かって挑戦することが大切で、普段から夢を意識することチャンスを構えて得ることができることを学んだ。私は、普段から夢を意識して生活をしていないと思う。だが、夢はあって、そのための行動をいくつか実行した。この哲学塾を受けることも行動の一つである。今回学んだことを意識したら哲学塾の学びをより自分のために活かせるように、様々な事でも活用できると思った。

NOと言わないで主体性を大事にする姿勢については、先週の b\_lab でも学ぶことができた。改めて学ぶことで、とても重要なことであると再確認できた。授業の中であると、段ボールでロボットを作っていたが、技術の結晶ともいえるような技能が詰まった作品で、結果社員の技術向上につながるということ。NOと言わないことの裏側には、このような厚情のチャンスが詰まっていて、新たな可能性を秘めていると知ることができた。また、社員が楽しく働けることが、とても奥深かった。仕事はやりがいがあって楽しいと思うことが望ましいが、生活のためにすると思っていた。金坂社長は、社員のやる気を引き出し、自分を、家族を幸せにするような仕掛けをしていた。このことを学んで、これから就職活動を本格的に始める際、今回学んだことを手掛かりにしようと思った。

金坂社長は、リーダーとして他人本位で物事を考えられていると感じた。社員を思いやる社長は多くいると思うが、社員の家族の幸せまで思いやっていることには驚いた。私の父親が仕事を終えて楽しかったという理由から笑顔で帰ってきたことがなかったから驚いたのだと思う。夢に向かって挑戦し続ける大切さ、リーダーとして思いやることが幸せにつながることを学ぶことができた。

---

11月17日(土) カネパッケージ株式会社 金坂さんの講演を聞いて

今回の金坂さんの講演を聞いて、金坂さんとカネパッケージのお話から人の人生と会社の本来あるべき理想的な関係を感じることができました。“働く”ということと“会社の在り方”について雇う側も雇われる側も一旦立ち止まって考えてみるべきだと感じました。又、失敗は成功の元だからとチャレンジすることを厭わない心がチャンスにつながる感じたので今後の考え方に活かしていきたいと思いました。

・金坂さんは幼い頃の悲しい事情や学生時代の困難を乗り越え、ハングリー精神、忍耐力、独立心、経営感性が身につき、様々な障壁をいかに乗り越え、生き抜いていくかという精神力、生命力にとっても富んでいる人だと思いました。そして、ご自身がそのような辛い思い、苦しい思いをしてきた経験があるからこそ人の心に寄り添い、共感できる方になったのだと思います。

・ワクワクする仕組みづくり

限界に挑戦することの大切さ

夢に向かって挑戦する人を100%支援

・チャンスが無い込んできたときにそれがチャンスだと見えているか見えていないかが大きな違いになる。見るためには夢を持ち続けることが大切である。

チャンスは突然勝手にやってくるものではないから、色々行動している中ですれ違っていくチャンスを逃さない。

・会社として従業員を幸せにすることで従業員の家族を幸せにする。

⇒楽しいから働きたいと思えるような仕事を楽しめる環境に会社になる。

好きこそものの上手なれ。

・楽しいことに一生懸命取り組んでいるといつか限界にぶつかるが、限界にぶつかっても楽しいから挑戦し続けることでいつか突破口が開けて限界も越えることができる。

障害や困難を乗り越えたときに進化していく

Ex. 衝撃に弱いカメラのパッケージング（大手が二ヶ月かけてできなかったものをカネパッケージは二週間で作り上げる）

・やる気を出せる環境を作る

感動体験で愛社精神を育み、頑張りの認識を大切にする。

小さな良い変化に気づき、褒める。（小さな変化に気づく観察力、洞察力が必要になる）

・“空気をきれいにする 夢のパッケージ” の目標の通り、カネパッケージではマンダリンの植林を行い、梱包材のイメージをクリーンな形に変えると共に見えないところでとてもお世話になっている人やモノ、環境への恩返しをしている。

---

## 【カネパッケージ 金坂社長の講義を聞いて感じたこと、考えたこと】

リーダー哲学について、初回講義を受けました。

金坂社長から3つのお話がありました。1つは、「ひとを育て人を作る」こと。2つ目は、「優良企業の経営」、3つ目として「人生設計」です。

「ひとを育て人を作る」

「ひとを育て人を作る」とは、従業員の満足と理解しました。従業員のやる気をどう引出すかが、問題だと思います。どんなに有能な能力・スキルを持っていたとしても、やる気がなかったら、どうなるのか。やる気が発揮されたなら、どんなに有能な能力・スキルを発揮できるのか、説明を受けました。私自身も同様のことを思い感じるころです。従業員を褒めることで自信をつけさせる。リーダーは、褒めることで他者承認することなんだと思っています。他人から自己承認がされないと、精神的に病んでしまいます。自分が働く意義、働くことでの貢献が実感できない。逆に自己承認がされる実感を得ることができれば、さらに自信となって、自らの意思に従って行動を起こすことになります。他者承認をしないと、他者は自己嫌悪に陥り活動を止めてしまいます。そのようなことにならないように、他者を承認することは、リーダーにとってとても大切なことだと思います。そのような意味においてリーダーが果たす役割としてメンバーを褒める（その人がする活動

の役割、成果、アイデアを褒める) ことだと思えます。

チャンスについて、お話がありました。今回、チャンスを体系的に図表化して頂きとても分かりやすかったと思えます。チャンスは連続的に訪れている。チャンスが通過したとき(後になってから)、気づくものである。チャンスが訪れたときに、自分がチャンスだと思うか、思わないかが1つの分かれ目であると言っておりました。チャンスの機会を得るための準備や努力が必要であると痛感しました。以前、別の方の講演でチャンスをものにできるひとと、そうならないひととの差について、話を聞いたことがあります。「チャンスは平等ではない。」チャンスをつかむには、チャンスをつかむための努力を惜しまず、一所懸命にやる人にだけ訪れると言ってました。私も過去の経験から、一所懸命にしている人に、チャンスが訪れ、チャンスをものにできると感じています。

#### 「優良企業の経営」

CSR、企業の社会的貢献活動として何をやるのか、何を目的にするか、このことについて、お話がありました。社会的貢献活動を通して、会社が社会に貢献し、社会から会社の活動を支持頂くこと。そして、従業員は社会貢献の活動を通じて社会の役割を実感、自分たちの活動の意義を評価し、さらなる躍進、役割を果たすべく、活動へと突き動かす原動力へとなるものであると説明をされていました。私も企業は、社会貢献をすべきだと思います。とくに、生活環境、スポーツ、教育について、地元(ベトナムならベトナム人)の人を応援すべきだと思います。地元的生活環境を改善するための活動、スポーツのスポンサー。プロスポーツではなく、市民のスポーツ活動をサポートするような寄付。例えば、市民体育館の施設維持費用としての役割、学生スポーツ(合宿・大会・遠征)費用のサポート、企業が大学・専門学校を運営し、学生は無償で学べる。あるいは、企業の福利厚生として、従業員の家族に奨学金を無利子で貸し出すような活動があってもいいのではないだろうか。

#### 「人生設計」

平均寿命、健康寿命、何をやるのか、何を目標にするか、このことについてお話がありました。

具体的に自分の人生、そしてこれからの人生設計について考えました。20歳の私「社会に流され生きてしまいました。」30歳の私「一生懸命、仕事を頑張りました。頑張ることが目標だったので、何も生まれませんでした。」40歳の私「30歳の頑張りが否定され、社会から取り残された虚無感・無力感がありました。そこから新たに社会的な信用を取り戻すこと、同じ過ちを繰り返さないような活動はじめ、軌道にのり始めました。」50歳の私「身体的な健康の維持管理、精神的な健康を意識しながら、自分の活動を盤石なものとするために、さらなる活動をし続けます。」60歳の私「後進の人の育成をしたいと思います。」70歳の私「新しく、社会貢献のための活動をはじめたいと思います。」80歳の私「身体的・精神的な問題がなく、好きな人、好きなことに囲まれて楽しく過ごしていきたいです。」

「Life Shift」の長生きするためには、一生涯社会のために働くことが長生きの秘訣だと言っておられました。私も一生涯社会のためにお手伝いすることが出来たら、どんなに

か素晴らしいことと思っております。それが、例え、90歳過ぎのおじいちゃんが近所のじいちゃん達とコンビニの在庫補充作業をしていたら、それはそれで素晴らしいことなんじゃないかと思えます。いずれにせよ、90歳を過ぎても動く足腰があること。精神的に健康であること。この2つがあれば、お金や物などなくても仲間と幸せな生活を送ることができると思えます。そのような90歳のじいさんになれるように、足腰、精神的な健康を維持し、社会貢献できるように頑張りたいと思えます。